

核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める

医師・医学者のつどい

ニュース

第24号
(復刊1号)

2003年5月31日

核戦争に反対し核兵器廃絶を
求める医師・医学者のつどい事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862

e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

I P P N W北アジア地域会議を 京都で開催準備

IPPNW日本支部は5月10日、広島で総会を開き、本年10月4日(土)5日(日)京都において、北アジア地域会議を開催することになった。この会議にはマスコイIPPNW会長を始め、日本、中国、韓国、北朝鮮、さらにはモンゴル、米国、ロシア、オセアニア、東南アジアなどからの医師が参加する予定。要領は次の通り。

- ・日時=2003年(平成15年)10月4日(土)~5日(日)
- ・会場=キャンパスプラザ京都
- ・テーマ=国際間の協調による核兵器及び大量破壊兵器の廃絶をめざす。また、2004年IPPNW世界大会(北京)の成功と北東アジアの緊張緩和と非核化をめざす運動について討議を行う。
- ・内容=講演、報告、シンポジウム

90年代、世界は、国際司法裁判所の「核兵器使用は原則違法」との勧告的意見など核廃絶へと大きく前進した。これらは私達「反核医師のつどい」やIPPNWなど世界中のNGOが連帯し運動した成果であった。しかし、21世紀になって米国のブッシュ政権が、一方的に国際ルールを破り、小型核兵器の開発を始めるなど核軍縮は危機的な状態になっている。

アメリカは大量破壊兵器所有を口実にイラクを先制攻撃。この何ら正当

性のないアメリカの侵略戦争に対して、反戦運動が世界各地へ瞬く間に広がり、国連中心の解決を求める声が高まった。結果的には戦争を止められなかったがこの市民の力は今後ますます大きくなり、一國主義を凌駕する時が来るだろう。

地球上には核兵器、環境問題など緊急に解決すべき問題が山積している。しかし、国益のみにこだわる政府間交渉で

再刊にあたって

核をめぐる危機、 今こそNGOの連帯で核廃絶を



取り続けている。被爆者は高齢化し、原爆症認定集団訴訟や在外被爆者問題など緊急な解決が必要である。アジアでは、北朝鮮がNPTから離脱

このような情勢の下、「つどい」や「反核医師の会」が国際的に、また、地域で果たす役割はますます重要になっていく。

当面の最重要課題は北東アジアに非核地帯を作ることである。そのために「つどい」としても朝鮮半島や中国の医師や市民グループと連帯して取り組むことが重要である。先日、体制強化の

沖縄に反核医師の会結成

3月15日、那覇市内で「核兵器・核基地をなくす沖縄医師・歯科医師の会」(略称「沖縄県反核医師の会」)結成総会を開きました。

結成総会に先立ち、「劣化ウラン弾とその被害」をテーマに琉球大学理学部教授の矢ヶ崎克馬先生による講演が行われ



昨年のつどい(日色とも氏の記念講演)

ました。結成総会には医師・歯科医師など28名が参加。総会では松井和夫反核医師・医学者のつどい代表世話人が来賓あいさつを行い、「イラクへの攻撃が切迫しているこの時期に沖縄で反核医師の会が結成されることは大変意義深い」と激励しました。

また、総会は規約や活動計画、役員体制、予算などを全会一致で採択し、今年11月1日~2日に開催される第14回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」を成功させる

第14回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」

日時 2003年11月1日(土) 午後開会~2日(日)

場所 沖縄県那覇市・パシフィックホテル沖縄

記念講演や分科会、交流会、基地見学などのオプションツアーを予定。

反核京都医師の会が総会

京都でのIPPNW北アジア会議の成功めざす

核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会・IPPNW京都府支部は4月24日午後、京都府医師会館で第23回総会を開き、代表に岸田綱太郎京都府立医大名誉教授を再選するとともに、今秋京都で開くIPPNW北アジア会議の成功に向けて努力することなどを決定した。

京都医師の会は昨年度創設20周年を迎え、20周年記念誌を刊行するとともに、米国同時テロ後ブッシュ政権がすすめる報復戦争、先制攻撃論に対して、話し合いによる平和的解決を目指して、ワシントンでのIPPNW世界大会への参加や、悪の枢軸と指摘されたイラクでヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルの展示会などを開催してきている。

本年度はIPPNW北アジア地域会議を10月京都で開き、イラク戦争後の国際政治の状況を踏まえた平和の構築と北東アジアの核廃絶に向けた取り組みを話し合う事になっている。

その他、2004年9月のIPPNW世界大会(北京)成功のための準備、世界でのヒロシマ・ナガサキ原爆写真展

ことなどを確認しました。全国の医師・医学者のみなさんのご参加をお待ちしています。(沖縄県反核医師の会世話人・照屋正信)

- 核戦争を防止する石川医師の会「16周年総会記念講演」
- いまイラクで何が起きているか 劣化ウラン弾がもたらしたもののリスト 森住卓氏
- ・とき 6月29日(日) 午後2時~4時
 - ・ところ 石川県教育会館2階大会議室
 - ・参加費 500円
 - ・共催 非核の政府を求めろ石川の会
 - ・主催 ビース・フェスティバルCHIBA2003
 - ・いま力をひとつに 伝えよう 被爆の実相
 - ・後援) 愛と平和を歌うコンサート 梅原司平
 - ・参加券 1500円
 - ・主催 千葉県平和事業実行委員会(千葉県、千葉市などが後援)
 - ・映画上映と被爆者の証言 里見加世子
 - ・生きる・その証しのために
 - ・コンサート 千葉市文化センター
 - ・とき 7月12日(土) 午後5時開場
- と被爆者の実情ノ・支援しよう 原爆認定訴訟ノ・なくそう 世界の核兵器を!



NO WAR ピンクリボンを付けて



魚住 君枝子

プッシュは、5月1日にイラク戦争の「終結」宣言をした。しかし、本当に終わったのであろうか。悲しみと憎しみが新たに生まれ、破壊された人類の遺産は永久に取り戻せない。この戦争に賛成する声を私は周りの誰からもきかなかつた。もし地球市民が全部で100人としたら、賛成と反対と知らなかつた人の割合は、5人对80人对15人位だろうか。

政治家が国益と自らの野望のために大義を唱えて生命と人権を踏みにじる。そういう時代は一昔前に終わっていたはずではなかつたか。国益とは何であろう。石油が手に入っても死んだ命は帰らず、失われた手足も取り戻せない。戦争が永久になくなり、自分も、自分の子ども達も戦争では命を落とすことはないと思えること、これ以上の安全保障はなく、これ以上の国益もないと思う。

命を守ることが使命である私たち医師は、命を危めるとのような事態にも、反対しなければならぬ。生む性を持ち、そして、子どもを診る仕事を持つ私には、空爆を受けた子どもたちの悲鳴や、その母たちの嘆き、そして無理やり戦場に送り込まれて犠牲になった兵士の母たちの悲しみの声が聞こえる。

命を危めることは重大な犯罪ではないか。戦争なら許されるのか。NO! 決して許されない。2月中旬、近づく開戦の気配に何かをしないではいられなくなり、友達と2人で、NO WARと書いたピンクのリボンを付け、人にも勧めることで、反戦運動に参加してきた。戦争への流れを変えていくのは、一人一人の力の結集しかないと思えたからである。しかし戦争は始められ、

「終結」した。本当に終わったのだろうか。戦争で傷ついた人々の悲しみが続く限り戦争は終わらない。その声が耳にこだまする限り、私の中の戦争も終わらない。二度とこのようなことが繰り返されないと保障されるまでNO WARと言いつづけてたい。

(愛知県・核戦争に反対する医師の会)



連憲章」という秩

アメリカのイラク戦争の挑発に、かつてない戦争反対の声を結集した。それは20世紀最大の反戦運動であったベトナム反戦運動より広範囲な運動となった。

この国際世論に反して強行されたイラク戦争は約1カ月で「形として」は終わった。しかしテロの根源は撲滅されたわけではない、大量破壊兵器は地球上から減つたわけではない、中東の人々の生活の安定、世界秩序も安定したわけでもない。逆に「国連」の秩序

「強い者勝ち」というジャングルの論理(加藤周一)からの脱却として人類が20世紀を

序の無視と、更に圧倒的な国連加盟国の戦争反対という意見にもかかわらず「非難決議」が国連総会の議題にもされず、国連の機能は麻痺したかのようである。

更にこの戦争は、「抑止力としての核兵器」が、更にエスカレートして「先制攻撃」として「核兵器の使用も辞さない」というアメリカの

日本の「非核三原則の法制化」と「北東アジア非核地帯条約」の締結を

TBTを核不拡散の武器としてきたが、いまやそれを破棄し核実験の再開を始めようとしている。それは「国際的合意を破壊する輩がいるから」という理由での国際的合意の破壊行為である。これまでに「核兵器廃絶」へ一歩一歩と歩み、漸くにして「NPT」にたどり着き、その6条「誠意をもった交渉」の実現が課題であった。しかしアメリカの「国家安全保障戦略」とそれによる新たな小型核兵器の開発決定で核兵器廃絶という人類の願望はまたも

無視された。「イラク戦争後」北東アジアの安全保障が国際的な関心事となってきた。この地域における核の不安定を封じ込める方法は唯一この地域に非核地帯条約を設定することである。しかし、現状では中国、ロシアに核兵器に核兵器を廃絶を求め、従つて北東アジア非核地帯条約といつても中国、ロシアの同意は無理である。したがって1992年の南北朝鮮の「朝鮮半島非核化共同宣言」、日本の「非核三原則」、これらを基礎に日本、南北朝鮮の三方国でまず非核地帯を設定す

ることがきわめて重要となる。そのためには先ず日本の非核三原則の法制化がキーとなる。それはアメリカの核が日本に存在しないという条件の明示である。その法制化の実現のためには草の根の自治体からの運動が今最も重要である。

私達「反核医師の会」は、アメリカの「先制核攻撃」という「国家安全保障戦略」は時代錯誤であり、それは「核の冬」を招来することをこれまで以上に国民に粘り強く訴え続けなければならぬ。同時に関連する諸団体と協力しながら「日本の非核三原則の法制化」と「北東アジア非核地帯条約」の締結の運動に精力的に取り組む必要がある。

(つどい)代表世話人

「コスタリカへ行く」が実現

みなさんのご参加をお待ちしています

人と人が殺し合う事は避けられないのか? 核兵器を持たない安全が守れないのか? インド・パキスタン・イスラエル・北朝鮮と保有を正当化する国が増加するなかで、軍隊を憲法で廃棄宣言し、積極的非武装中立路線をゆくコスタリカ。

一昨年の「つどい」で、反核法律家協会の池田氏の記念講演の後二次会で、「コスタリカへ行く」の話がでて、今年8月実現する。憲法に忠実に軍隊を作らず、他国から攻撃される口実も作らないために、積極的に民主主義教育を行い、環境保護にも力を入れている。

医療現場の視察と同時に自然保護の成果も満喫できる企画。映画「軍隊を捨てた国コスタリカ」の製作助手を務めた足立力也さんの案内で、平和・健康・人権について考えるまたご参加を。

(常任世話人・深沢尚伊)

平和と交流の旅

コスタリカ
軍隊を捨てた国
8日間

旅行日程 8/10(日)~17(日)

旅行費用 お一人様40~45万円

お一人部屋追加料金85,000円
料金は参加人員などにより変更があります。
締切が迫っています。
参加希望の方は、下記事務局までお知らせ下さい。

コスタリカ共和国 (Republic of Costa Rica) とはこんな国です。

恒久的に軍隊を禁止する憲法と50年間侵略されずに国を安全に存続させてきた現実
話し合いと人権を尊重する教育とそれを保証する国家予算の4分の1を占める教育予算
大統領の再選や議員の連続立候補を禁ずる選挙制度と子どもも参加する模擬投票制度

お申し込み・お問い合わせは
(株)国際ツーリストビューロー

旅行業登録3-393 日本旅行業協会正会員 一般旅行業務取扱主任者 松岡武広
ツアー受付担当者 森本・柘本
本社営業所 〒650-0012神戸市中央区北長狭通4-7-1 元町駅前ビル
TEL078-391-2961 FAX078-332-0977
東京営業所 〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20 協立第3ビル
TEL03-5940-0936 FAX03-5940-0938

主催団体

反核医師・医学者のつどい
核戦争に反対し廃絶を求める医師・
医学者のつどい
事務局: 全国保険医団体連合会内
TEL 03-3375-5121